

おやこの広場通信



はらっぱ NO.26



衣替えの季節のはずが、なかなか夏の物をしまえない今日この頃です。暑かったり寒かったりで体調も崩しがちですが、今月も元気な子どもたちの様子をお知らせいたします。

< 9月のおやこの広場から... >

楽しかったね、ボウリング

2学期に入り、最初のおやこの広場にやってきたAくんは、サッカーボールを見つけて駆け寄って来ました。(このサッカーボールは、夕涼み会のゲームコーナーでボウリングのボールとして使ったものです。)そして、Bちゃんもボールに気づきAくんの側へ。二人はボウリングのピンを並べていた壁の前に行き、何回もボウリングをしているように壁に向けてボールを転がしていました。また別の日にはCくんが同じように、布積み木をピンに見立てて高く積み上げ、ボールを転がして“布積み木ボウリング”に夢中になっていました。

夏休みに経験した楽しかったことを思い出したり、久しぶりに会ったお友だちとその楽しさを共有できた喜びは大きかったことでしょう。

いっしょにやろうね

楽器のコーナーでは、Dくんが大きな声で「バンバンバンください」と言いました。バンバンバンとは、身振り手振りの説明から、太鼓のバチということが分かりました。バチの入れ物を出すと、一番長いバチを選び体を左右に揺らして、とっても楽しそうに太鼓を叩いていました。そこへ、EくんとFくんも来ました。するとDくんが「いっしょにやろうね」と声をかけて、太鼓のバチを渡していました。やさしく声をかけてもらい、EくんとFくんはとても嬉しそうでした。そして、三人で叩く元気な太鼓の音が響いていました。

久しぶりにおやこの広場に参加したDくんでしたが、自分の気持ちをしっかり伝えたり、お友だちの事を思ったり、心の成長を感じられました。

手伝ってあげるね

おやつの後の時間は、ブロックや布おもちゃで遊んでいます。Gちゃんは、ピンポン玉大の綿を布で包んで作られたおもちゃで遊んでいました。玉の両脇についているスナップボタン同士を留めて、次々に繋げていくととても長くなります。それを持ち上げるとゆらゆらと、今にもスナップボタンが外れて落ちそうです。すると、Hくんが手を伸ばしてきました。Gちゃんは、思わず「やめて」と言いました。そこで、「おさえてくれるの?」とスタッフが尋ねるとHくんは大きく頷きました。Gちゃんは、Hくんに押さえてもらって最後の一個まで繋げることができてにっこり。

長く繋げることができたGちゃん、お手伝いできたHくん、二人の満足そうな表情が印象的でした。

でんごんぼん

* 音楽遊び:12日(金)・24日(水)

* 親子制作:傘袋で作るロケットです。お好きな時にどうぞ。

< こんな時どうしますか？ >



「かして」「どうぞ」を教えたときー

昨年の6月のこのコーナーの「お友達とのコミュニケーションについて」のテーマの時にも少し触れましたこのテーマは、子ども達の関係の中で初期段階からみられる大きな事柄でもありますので、今回改めてもう少し詳しく取り上げてみることにしました。

よそのお子さんとの関わりを持つようになり始めの頃から親交が深まって来ても、たびたび起こるトラブルのひとつが、遊具の貸し借りを巡ってのことです。これは、お友達が使っているおもちゃを使いたくなったり、同じ物に興味を示して同時に手をかけるなど、おやこの広場でもよく見られる光景です。そんなとき、殆どのお母さまは「ちゃんに貸してあげられるよね」と、ご自身のお子さんを一方的に我慢させてしまわれます。けれども、その時のお子さんの気持ちはどうでしょう。自分が我慢をして相手に譲る...というのは大人の考え方、幼い子どもたちにはそれは理不尽なことではありませんか。ではそんな時はどうしたらいいのでしょうか。まずは何事も経験することから始まります。トラブルを恐れず、場数を踏んでください。最初からみんな仲良く、譲り合いの精神で...というのは、言っただけでできることではありません。周りの大人の暖かい見守りと適度な働きかけがあって、子どもたちの心は少しずつ成長をしていくのです。

楽しんで遊んでいるお子さんの気持ちを尊重すれば、簡単に「貸してあげなさい」とは言えません。でも、相手のお子さんのおもちゃを使いたい気持ちを思うと、何とか貸してあげたいという気持ちもありますね。そのことをお子さんに伝えてあげましょう。「ちゃんもこれが使いたいんだって。あなたが終わったら、貸してあげられるかな？」と、今のお子さんの気持ちを尊重した言葉かけをしてみてください。「いいよ」とすぐに貸してあげられる時と「イヤ！」と言う時があるでしょうが、それぞれを認めてあげてください。納得して貸してあげられた時に「貸してあげられて偉かったね」と誉めてあげること、また貸してもらったお子さんには「ありがとう」の言葉を返せるように、促してあげましょう。このことが嬉しい体験となり次も貸してあげられるようになり、貸してもらえたお友達は逆の立場になった時に貸してあげられるようになるという、両者にとって大切な経験となっていきます。

日常的にこのようにスムーズに進む時ばかりではありませんが、このことを念頭において周りの大人たちが対応していくことが大切だと思います。あまりにも長い時間独り占めするようなことがあった時には、もう一度「いっぱい遊んだから、そろそろ貸してあげられるかな？」と言葉かけすることも必要になるかもしれませんね。ただ、基本はできるだけ当事者同士でやり取りができることで、大人の役割はあくまでも、言葉や行動、気持ちの表現の未熟な部分を助ける補助的な立場であって、圧力を与えることでの解決は避けたいものです。そうでないと、たとえ譲れたとしてもそれは大人に言われたからであって、自発的に譲る心の育ちにはなりません。またトランポリンやブランコなどの場合、10数えたら交替ということがあります。これは、幼稚園児くらいになれば理解できますが、広場エイジには実際のところは難しいことです。完全に無意味ということではありませんから「10数えたら交替しようか？」程度の大人側の一つの提案としてはあってもいいですが、逆に10数え終わる前でも、満足すると替わってあげられることもありますので、あまりそこに執着しないほうがいいと思います。



こうしたことはご家庭での兄弟関係や大人との関係の中でも、経験していけることです。年齢の上下がある場合、大きい方が譲って小さい方が譲られるということが当たり前になりがちですが、その中にも「貸して」「どうぞ」「ありがとう」の経験をいっぱいすることで、それがお友達などの外での行動に繋がって行きますので、意識して過ごしてみてください。バランスの良い心の成長や譲られる経験がいっぱいあることにより、少しずつこのようなやり取りがスムーズにできるように育っていきますから、今すぐに結果が見えなくても暖かなまなざしと適切な働きかけを持つことを心がけていきましょう。